

## 福島 1F リアルと汚染水放出

写真は表題の福島中央テレビ報道特別番組の台本である(メディア総合研究所『放送レポート』2023年7月)。この番組は2021年度第59回ギャラクシー賞テレビ部門の大賞を受賞した。「あの日、原発の傍らにいた人たち」と副題が付けられた台本を読むと、3・11福島第一原発事故現場の臨場感が伝わってくる。

甚大で取り返しのつかない被害をもたらした事故から12年余の時間が流れたが、原発事故の恐ろしさ、被害が続いている。そんな中、原発からの処理水と呼ばれる「汚染水」の海洋放出に注目が集まる。

写真下は東京新聞 web21 日。東京電力福島第1原発では、日々発生する高濃度汚染水を処理した後の水を海に放出する計画が大詰めを迎えている。漁業関係者らの反発は続くが、既に放出設備は準備が整い、政府の決定を待つだけの状況にある。本紙へリ「おおづる」から直近の状況を空撮した。

構内にたまる処理後の水は8月時点で約134万トン。うち約7割は処理が不十分で、海洋放出するにはもう一度処理する必要がある。

また、放射性物質の一つであるトリチウムは、現時点では除去できない。そのため、港湾外からくみ上げた大量の海水で薄め、濃度基準(1リットル当たり6万ベクレル)の40分の1を下回ることを確認しながら、海底トンネルを通じて海洋放出する計画。

政府・東電は、何度も公式の場で「関係者のご理解なしに、いかなる放出もしない」と約束しているが、今のところ理解が得られたという状況にはない。

(2023年8月23日)

